

令和6年度 学習分析事業 改善計画シート 三原市立第二中学校

【別紙】

1. 本年度の結果

①学力定着分析 NRT 偏差値平均(全国を50とする)

		国語	社会	数学	理科	英語	全体
1年	前年度結果 偏差値平均						
	本年度結果 偏差値平均	50.3	49.1	50.5	51.2	51.5	50.5
2年	前年度結果 偏差値平均	48.4	46.7	51.0	50.1	50.5	49.4
	本年度結果 偏差値平均	49.4	46.3	47.7	45.7	50.2	47.3
3年	前年度結果 偏差値平均	49.7	44.9	48.9	50.6	48.4	48.4
	本年度結果 偏差値平均	49	44.8	46.5	45.4	46.5	46.4
全体	前年度結果 偏差値平均	49.5	46.1	50.3	50.3	49.8	49.1
	本年度結果 偏差値平均	49.6	46.7	48.2	47.4	49.4	48.1

②全国学力・学習状況調査 正答率平均(第3学年対象)

教科	国語	数学	英語
前年度結果 (対県比)	73 (104)	50 (102)	46 (107)
本年度結果 (対県比)	58 (100)	49 (94.2)	

2 令和5年度について

①調査から明らかになった課題

【年度当初の学力について】(NRTをうけて) ●国語では、考えや感想をまとめて伝え合う(40.5%)【1学年】、古典・漢字の読み・品詞の理解(41.4%)【2学年】、考えや感想をまとめて伝え合う(31.1%)【3学年】に課題があった。●社会では、都道府県の名称と位置(40.9%)【1学年】、歴史の流れと時代区分(33.9%)【2学年】、地図の見方と身近な地域(44.4%)【3学年】に課題があった。●数学では、比例を利用した求め方(24.0%)【1学年】、平面図形(44.1%)【2学年】、関数(グラフと式)(28.0%)【3学年】に課題があった。●理科では、物の温まり方や体積(31.1%)【1学年】、動物のなかま(63.2%)【2学年】、植物の体のつくりと働き(50.1%)【3学年】に課題があった。●英語では、自分に関する英語を書くこと(50.5%)【1学年】、テーマに沿ってスピーチをする(48.4%)【2学年】、長文の概要や要点を読み取る(50.9%)【3学年】に課題があった。	【年度当初の学力について】(全国学力・学習状況調査をうけて) ●国語では、「文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるかどうか(56.1%)」に課題があった。無回答率も15.8%と高かった。 ●数学では、「四分位範囲を求める(55.3%)」、「三角形の合同を基に同位角・錯角が等しいことを示す(26.3%)」に課題があった。 ●英語では、「事実や考えが書かれた英文を読み、考えを表している、英文を選択する(57.4%)」に課題があった。
--	--

②課題改善に向けた学校組織全体の重点目標・取組

重点目標 (何を、どの程度達成するか)	達成のための具体的取組 (どのようにして)	スケジュール	検証の指標・目標
【授業改善を通した学力・学習意欲の向上】 ○NRTでの課題を通して、継続的に、朝ドリル、小テスト、演習問題を行い、継続的な基礎学力向上を図る。 ○「本質的な問い」を意識し、生徒の主体的な学びにつながるような発問や言語活動を設定する。 ○実際のデータを扱いながら、体験型の授業を通して、体感出来る授業を実施する。 ○課題単元は、授業の中で考えを書いたり、話す場面を設定する。	①NRTの誤答分析による実態把握と改善計画の立案 ②教務・研究委員会において改善計画の共有 ③全体研修による目指す授業の共有 ④管理職による授業参観実施 ⑤全国学力・学習状況調査の誤答分析による実態把握 ⑥全教員によるNRTや全国学力調査の誤答分析による実態把握をし、課題のある問題について、どのように取り組むか、単元構想を計画し、実施する。 ⑦NRTのアシストシートを活用し、課題のある問題の類似問題の実施。 ⑧今年度の課題と成果を振り返り、来年度に活かす。	①6月 ②6月～7月 ③4月 ④6月以降随時 ⑤6月～7月 ⑥8月～9月 ⑦9月以降随時 ⑧令和6年度4月	・各学期末テストの値 ・作成した類似問題や課題として挙げられた問題の正答率が目標値以上
【学級・学習集団づくり】 ○一人ひとりの役割を与え、掲示し、自己有用感を持たせる。○NRT/QUの結果をもとに必要に応じて、個人面談を実施する。○実態に合わせ、ルール の 確立や人間関係づくり(ピア学習など)を行う。○構成的グループエンカウンターを取り入れる。○ティリーライブに	①QUの分析による実態把握と改善計画の立案 ②教務・研究部の会議において各学級の実態と改善計画の共有と具体的な実践 ③各学年部を中心に計画をもとに実践・分析・改善 ④今年度の課題と成果を振り返り、来年度活用。	①6月 ②7月 ③随時 ④3月～令和6年度4月	・QU2回目の一次支援の数値の向上(各学級で1回目以上)

3 令和6年度について

①調査から明らかになった課題

【学力調査について】 (NRTをうけて) ●国語では、考えや感想をまとめて伝え合う(42.8%)【1学年】 ●国語以外の教科で、前年度結果を下回っている。【2学年】 ●「思考・判断・表現」をするための、基礎学力が身につけていない【3学年】 (全国学力・学習状況調査をうけて) ●県との差が一番大きいのは、関数領域である。特に、求める方法を説明する問題では、県と-8.8の差がある。【数学】 ●「意見と根拠」や「抽象と具体」といった情報と情報の関係の理解に課題がある。【国語】
--

②課題改善に向けた学校組織全体の重点取組等

重点取組上記課題を踏まえたもの	具体的方策(継続して取り組めるもの)	検証指標及び時期
【学力向上について】 ・まとまった文章を書くこと ・長文の読み取り ・情報と情報との関連付け ・基礎学力の定着	①全学年全教科等でのR80の実施(必須) ②学習規律を整え、落ち着いて聞く雰囲気づくり ③指示を形に残す等の視覚支援 ④長文や読み取り問題についてのキーワードのピックアップ	○学校評価アンケートにおいて、肯定的回答の割合が「授業はよくわかる」80%以上「授業規律を守り、授業に集中し、意欲的に取り組んでいる」80%以上「授業の中で、学んだことの振り返りをしています」100%以上(年数回実施)
【学級・学習集団づくりについて】 ・児童生徒が主体の絆づくり ・安心できる居場所づくり	①支援の必要な生徒へ個別面談や普段からの声掛けを意識 ②アイスブレイク等実施し、相談しあえる雰囲気づくりをする	○QU2回目の三次支援の生徒の割合が減少する。